

ソーシャルインクルージョン: 貧困と社会的不平等に対峙して

Social Inclusion-Facing poverty and social inequality

【2006年 第32回 ICSW国際社会福祉会議(ブラジリア)報告書】

社団法人 国際社会福祉協議会日本国委員会

2006年 第32回 ICSW国際社会福祉会議(ブラジリア)報告書

目 次

- ◇「ソーシャルインクルージョン: 貧困と社会的不平等に対峙して」…3
(第32回国際社会福祉会議報告)

- ◇代議員会 (CoRep) 議事録(案) (7月21日)…4

- ◇執行委員会 (ExCo) 議事録(案) (7月22日)…14

- ◇ 第32回国際社会福祉会議概要・日程…23

第 32 回 ICSW 国際社会福祉会議報告

(ブラジリア・ブラジル)

(The 32nd ICSW International Conference on Social Welfare)

会 期:2006 年 7 月 16 日(日)~20 日(木)

会 場:Ulysses Guimaraes Convention Center

テーマ:ソーシャルインクルージョン:貧困と社会的不平等に対峙して
(Social Inclusion-Facing poverty and social inequality)

主 催:ICSW 本部

運 営:CBCISS(Centro Brasileiro de Cooperacao e Intercambio
de Sernicos Sociais)

同会議は、ブラジルのブラジリアにおいて2006年7月16日から20日までの5日間、ブラジリアにおいて開催された。

国際社会福祉協議会(International Council on Social Welfare,ICSW)では、各国間、各国際団体の情報、経験を共有し、福祉の増進にむけて協力を進めることを目的に、1928年より国際会議を開催している。国際会議は2年ごとに世界会議、その間の都市の地域会議があり、2006年は世界会議の年であった。

54カ国からNGO関係者、学識者、政府関係者ら約900名の人々が参加し、日本からは3名が参加した。

会議では「ソーシャルインクルージョン:貧困と社会的不平等に対峙して(本会訳)」(原題:Social Inclusion-Facing poverty and social inequality)をテーマにシンポジウム、ワークショップ、討論会などが行われ、各専門分野における活発な議論が交わされた。

ここ数年の世界会議では、南北間での隔たりがあり、テーマは開発途上国の社会開発、地域開発、経済開発、公衆衛生、雇用、女性の地位向上などとなっており、欧米や日本の福祉関係者の課題とはことなる傾向にある。

なお、同会議に併せて、国際社会福祉協議会の加盟団体による、代議員会(CoRep)、執行委員会(ExCo)が開催され、活動報告や財務報告、定款の見直し等が行われ、国際社会福祉協議会の今後の運営に関する協議がなされた。

議事録（案）
代議員会（CoRep）
2006年7月21日

於 Location: Auditório do 15º andar da CNI, SBN, Setor Bancário Norte, Quadra 1,
Bloco C, Edifício Roberto Simonsen, Brasília（ブラジル）

1. 開会

会長は、前回のクアラルンプールでの会合を振り返りつつ、全メンバーに歓迎の意を述べた。冒頭、会長は韓国に対し、会議のオープニング・セッションにおいて、太極旗ではなく北朝鮮の人共旗が飾られていたことについて陳謝した。また事務局に対し、会議のための資料作成について謝意を述べた。事務局長から選挙の過程について説明があり、さらに会長が出席者全員に自己紹介を促した。

2. 投票権を有する出席者の確認

2.1 会議に登録した CoRep のメンバー

出席者リストは議事録の最後に付く（予定）

2.2 お詫び（欠席者）

Vajiraya Buasri, National Council on Social Welfare of Thailand

Hoi-Wai Chua, Hong Kong Council of Social Service

Jim Emerson, Plan International

Eva Holmberg-Herrström, Swedish National Committee of ICSW

Andrew Johnson, Australian Council of Social Service

Irene Kohler, Österreichisches Komitee für Soziale Arbeit

Yaakov Kop, Israel Council on Social Welfare

Romas Lazutka, Lithuanian Social Welfare Association

Sanguan Lewmanomont, National Council on Social Welfare of Thailand

Baruch Ovadia, Israel Council on Social Welfare

Ronald Penton, Swedish National Committee of ICSW

Mooneelall Ramphul, Regional Treasurer for East and Southern Africa
and Mauritius Council of Social Service

Stephen Yoder, The Salvation Army

3. 議題案の承認

2006CoRep 決議 / 1 : 7月21日の代議員会の議題を採択する。

動議 Michael Raper

賛意 Jong Sam Park

動議は通過した。

4. 前回委員会議事録の承認

2006CoRep 決議 / 2 : 2004年8月14、15日クアラルンプールにて開催された代議員会の議事録を承認する。

動議 Michael Raper

賛意 Hans van Ewijk

動議は通過した。

出席者の名前が CoRep 議事録に載ることが表明された。

5. 年間報告書およびプレゼンおよび2005~2008年世界プログラムの進捗状況レビュー

5.1 年間報告書

会長から、昨年はいつもより多くの活動があったとの話があったが、増加分の活動は地域の活動であった。

(会場からのコメント)

年間報告書は、CoRep によって採択された世界プログラムと同じ時期に提出された本質的な文書である。

5ページに載っているアルーシャ (Arusha) 会議にフィンランドが出席していたことが付加された。

年間報告書には、第32回世界会議準備のためにウルグアイで開かれた会議への言及が抜けている。

Qazi Faruque Ahmed (前世界会長) の釈放は国際組織の力を示すものである。

報告書は拍手を以って承認された。

5.2 世界プログラム

2004年に4カ年計画の世界プログラムが採択されたとき、CoRep は2006年に中間レビューを行うべきだと決定した。

(会場からのコメント)

貧困削減、とりわけ恵まれない人々の間での貧困削減という基本的な使命は、ミッション・ステートメントにも書かれているのに、世界プログラムには出てこない。これも含まれるべきである。

世界プログラムに、各国協議会の強化についての言及も付け加えるべきである。

年間報告書では、地域活動についてもっと言及すべきであるし、世界プログラムにも付加されるべきである。地域は世界プログラムを考慮に入れるべきである。

「インクルージョン (inclusion : 包摂)」も包含されるべきである。例として、北朝鮮を ICSW の活動に含めることが示された。

世界プログラムを、地域および国レベルに適用する方法を見つける必要がある。これは各地域にとっての課題である。

6. 会長報告

「2005 年および 2006 年は、資金提供が増えたためになかなか大変な年でした。南東アジアおよび太平洋地域における活動は目覚ましいものでした。ICSW の新しい出版物『ASEAN との連動』は、市民社会組織 (CSO) のための極めて良質のガイドブックです。各国協議会のマニュアルの出版が待たれます。

ヨーロッパ地域では数多くの地域活動が行われました。

中央・西アフリカ地域も活発でした。

カンパラ事務所はよくやってくれました。さらに強化するのがよいと思われます。

南米における活動ならびにメンバーシップの強化は嬉しいことでした。

黒海地域では、ミッション・アルメニアを中心とした、12 カ国の NGO のネットワークができました。

国際的なレベルでは、国際ソーシャルワーカー連盟および国際社会事業学校連盟と近しく活動しています。この 2 つの組織とは、毎年顔をあわせています。昨年は『国際ソーシャル・ワーク』誌再建のために 3 者が協力しました。ICSW のメンバーは全員『国際ソーシャル・ワーク』を読むことができます。ICSW は『国際ソーシャル・ワーク』誌に出資しています」

次いで、会長は将来への課題について言及した。

「私たちは困難な時代に多くの会員を失い、今はその再建途上にあります。

より多くの会員を募るためには、世界中でより一般的に通用する合法性が必要です。

また、ニューヨークおよびジュネーブの国連で、よりグレードアップした陳情によって世界的な提唱運動を強める必要があります。

3 つ目の課題は資金提供です。現在の賛助者による資金提供は、2008 年には尽きてしまいます。ヨーロッパばかりでなく、アジアや北米の豊かな国々からの、より多くの

支援が必要です」

会場からのコメントには以下のようなものがあった。

研究界との連携について議論があった。機関誌『グローバル・ソーシャル・ポリシー』に対する我々の資金援助を通して、というやり方がひとつある。2010年の香港での会議で、学术界との連携を増やす機会があるだろう。

ICSWの会員離れについての議論があった。これは、メンバーにサービスを提供しなかったかつての暗黒時代と関連しての、以前の会費構造に一部起因するものである。

プログラムおよびサービスを提供するのは、世界および地域両方の役割である。メンバーにサービスを提供する基本は、スタッフに給料を支払うに十分なだけの収入を得ることである。

我々は自分たちの比類なき役割を認識する必要がある。我々は国家志向である。我々は低所得と貧困削減に焦点を当てている。地域の政府や世界規模の組織は我々の貢献を認めている。

社会開発および経済発展のバランスを取るということにおいて、我々はもっと強くなるべきである。

7. 財務

7.1 2005年監査済み決算報告書

財務担当が説明を行った。監査済み決算報告書は ExCo で採択された。2004年に102,442ユーロの赤字を計上したが、2005年には24,833ユーロの黒字に持ち直した。SIDAから新しく資金を得、またフィンランドも資金を更新した。

2006CoRep 決議 / 3 : 2005年監査済み決算報告を受理する。

動議 Christian Rollet

賛意 Njål Petter Svensson

動議は通過した。

7.2 2007年および2008年の予算枠組み

財務担当は、予算は暗示的であると説明した。もし2008年までに新しい資金を得られなければ、我々は困難に直面することになる。2006年の黒字は見込めるが、そもそも貯蓄を安全なレベルまで持ち直すためには、黒字は必須である。2007年、2008年は黒字はゼロになる。すべてのプロジェクトを監督する世界事務所を動かすために、ICSWはプロジェクト収入にすっかり頼りきっている。

ここで、地域活動の重要性についての議論があった。予算は現時点では強いが、

将来については警鐘が鳴り響いている。

2006CoRep 決議 / 4 : ICSW 世界代議員会 (CoRep) は、(フィンランド外務省を通じての)フィンランド政府の支援、(SIDA を通じての)スウェーデン政府の支援、(ノルウェー外務省を通じての)ノルウェー政府の支援、およびオランダの NIZW (Netherlands Institute for Care and Welfare) の支援に対し、正式に謝意を表明する。

CoRep はまた常務理事ならびに会長に対し、この謝意に関する決議を上記 3カ国の政府および NIZW に正式に届け、また彼らの支援が将来にわたって続くことを願っている旨、伝えるよう求めた。

CoRep はまた成就理事ならびに ExCo に対し、迫りくる 2008 年の資金不足に対処すべく、既存の財源および新規の財源から資金を集めるのに必要な手段を取ることを求めた。

2006CoRep 決議 / 5 : 2007 年、2008 年の予算枠組みを採択する。

動議 Christian Rollet

賛意 Jong Sam Park

動議は通過した。

8. 世界執行委員会ポストに関する選挙

選挙管理委員長 Bjørg Månnum Andersson は、選挙についての報告を行い、結果を発表した。結果は以下の通りである。

会長 Solveig Askjem (任期は 2008 年までなので、選挙の必要はなし)

世界財務 Christian Rollet (任期は 2008 年までなので、選挙の必要はなし)

中央・西アフリカ地域会長 Charles Abbey

東・南アフリカ地域会長 Judith Kaulem

南・中央アジア地域会長 Chandara Bandara

南東アジア・太平洋地域会長 Michael Rape

ヨーロッパ地域会長 Hans Van Ewijk

世界執行委員代表

北東アジア地域 Anthony Kin-Wai Wong

ヨーロッパ地域 Pierre Alviset

ヨーロッパ地域 Uta Stitz

地域財務

中央・西アフリカ地域 Paschaline Fonyuy Tar

東・南アフリカ地域 Mooneelall Ramphul

ヨーロッパ地域 Uta Stitz

南アメリカ地域 Mirtha Sosa Crevoisier

2006CoRep 決議 / 6 : 選挙管理委員会からの報告を受理する。

動議 Mikko Mäntysaari

賛意 Thea Meinema

動議は通過した。

会長は、新メンバーを歓迎した。また ExCo ミーティングに諮って賛意が得られれば、会長は Mariana Raposo を南アメリカ地域の会長に、また Jong Sam Park を北東アジア地域の会長に、それぞれ指名する予定である。

9. 定款改訂

(定款変更点の説明)

常務理事は定款の変更点と、それが採択された結果どうなるかについての概要を説明し、選挙管理委員長は出席者もしくは代理人の合計が 32 名になることを報告した。

2006CoRep 決議 / 7 : 定款第 10 条の文言を次のように修正されたい。

代議員会の役割は次のとおりである。

- a) 「協議会」の議決機関としての機能を遂行すること。
- b) 役員および執行委員会の委員を選出すること。
- c) 2 年毎の予算枠ならびに 4 カ年世界プログラムを承認すること。

動議 Hans van Ewijk

賛意 Michael Raper

動議は 31 票の賛成票をもって通過した。

2006CoRep 決議 / 8 : 定款第 5 条 (a) の文言を次のように修正されたい。

5 a) 「協議会」の会員は次のカテゴリーに分けられる。

A: 各国委員会

B: 加盟国際団体

C: その他団体

D: その他執行委員会によって決定される、選挙権を持たないカテゴリー

動議 Hans van Ewijk

賛意 Charles Abbey

動議は満場一致で通過した。

2006CoRep 決議 / 9 : 定款第 5 条 (b) の文言を次のように修正されたい。

「協議会」への加盟申請に関しては、執行委員会により承認された定款・細則・準則に従って、執行委員会によって決定される。

動議 Hans van Ewijk

賛意 Uta Stitz

動議は満場一致で通過した。

2006CoRep 決議 / 10 : 執行委員会に以下の権限を付与すべく、次のように第 11 条 (f) を新しく定款に付加されたい。

加盟資格の承認および加盟資格の終了

動議 Jürgen Gohde

賛意 Njål Petter Svensson

動議は満場一致で通過した。

2006CoRep 決議 / 11 :

定款から第 8 条 (b) および第 8 条 (c) を削除する。

(b) 特定の地域における上記の団体は、その地域代議員会から 2 名の代議員を投票により選出する資格を与られている。

(c) 上記方法により、特定地域から選出された代議員の総数は、執行委員会によって人数の追加を認められることもある。

然して以下のように置き換える。

上記団体は全て代議員会の世界会議および地域会議に参加することができるが、代議員会の選挙権を持つものではない。

動議 Michael Raper

賛意 Jong Sam Park

動議は 29 票の賛成票、2 票の反対票、1 票の棄権票により、通過した。

2006CoRep 決議 / 12 : 執行委員会に以下の権限を付与すべく、次のように第 11 条 (g) を新しく定款に付加されたい。

地域の設置および再編

動議 Mikko Mäntysaari

賛意 Charles Abbey

動議は満場一致で通過した。

(構造改革の提案)

2006CoRep 決議 / 13 :

CoRep は以下の点について言及している。

1. 監査役は、現在の ICSW の構造が、適切な監督構造を規定していないと見ている。
2. さらに、現在の構造では、ExCo は保険に入ることができなかった。
3. ある地域では、地域の要求に応えるために、自身の登録を模索しなければならず、これは世界レベルでの構造変革と関連して行われるべきであった。
4. 地域への賛助資金の支払いにより、地域会長のあるものは、現実の、あるいは潜在的な利害対立の場に置かれている。
5. 世界各国から最大 27 人ものメンバーが集まる ExCo による意思決定は不便であり、また実践的ではない。このことが ExCo をして ICSW の職務に対して責任ある立場から遠ざけている。

以上 5 点に言及した後、CoRep は常務理事に、以下のように定款および細則の変更を準備するよう要請した。

1. 2006 年 7 月 21 日にブラジリアで開催される CoRep 会議における承認のために CoRep 宛てに提出された定款修正で提案されたように、CoRep の責任を確認する。
2. ExCo を監督・顧問評議会として再構築する。監督・顧問評議会は、会長、財務および地域会長により構成され、細則の作成・修正、また小規模の管理委員会の監督・監視について責任を負う。
3. CoRep に対して、監督・顧問評議会が責任を持たないその他一切の責務について責任を負う管理委員会を創設する。管理委員会は、会長および財務に加え、7 口以上の会費を納めているメンバーの互選によって選ばれた代表 1 名と、6 口以下の会費を納めているメンバーの互選によって選ばれた代表 1 名により、構成される。互選で選ばれた 2 名のうち 1 名が、副会長を務める。原則的には、地域会長は管理委員会のメンバーを兼ねることはできない。また絶対的な必要条件ではないが、原則として管理委員会は、3 つの地域からの代表を含むものとする。管理委員会は、年に四回、会合か電話会議を行わなくてはならない。
4. いかなる ICSW の地域も、個別に法的登録を行うことができるものとする。なお、個別登録については、適切な細則を条件とする。
5. ICSW がアメリカ合衆国外での新規の法的登録を行う道を模索することができるようにする。

さらに、常務理事は、定款と細則の矛盾点を特定し、訂正するよう指示を受けた。この定款改訂の過程においては、会長、財務および ExCo によって指名された 2 名の地域会長により構成される定款委員会が、常務理事を支援する。定款委員会は、定款および細則の変更が発効した時点で消滅する。

CoRep は、定款の第 13 条のもと、以下の条件が整う限りにおいて、郵便（無記名）投票により定款の変更を承認する権限を持つ。

1. 修正提案が投票の少なくとも 90 日前までに、ExCo によって提出されていることが必要である。
2. 投票した CoRep メンバーの 3 分の 2 が修正を支持する。

最後に、定款委員会の支援を得て、常務理事は、定款の変更に矛盾しないよう、細則の修正を準備し、これを承認のために ExCo に提出するものとする。

動議 Hans van Ewijk

賛意 Michael Raper

動議は通過した（賛成 30 票、反対 1 票）。

10. 2007 年社会開発委員会優先テーマ

委員会では「万人のための完全雇用ときちんとした仕事の促進」を考えている。CoRep で出された意見・助言は最終報告書に掲載される。

11. 隔年世界会議

11.1 2006 年第 32 回世界会議（コメント含む）

- 5 つの ICSW ワークショップは大成功だった。
- ICSW ワークショップが、世界会議の他のワークショップへの参加を妨げるようなものであってはならない。

11.2 2008 年世界会議

ExCo は、2008 年のホスト国はフランスで、という世界会議選択選抜委員会からの提案を採択した。提案されている日程は、2008 年 6 月 30 日～7 月 4 日。主催者は、歴史的なアプローチをもって、世界プログラムに基づいた会議を行いたいと考えている。ホスト国は地域および世界事務所と緊密に連絡を取り合うことになる。

11.2 2010 年世界会議

会議は香港で、恐らく 7 月に行われる予定である。国際社会事業学校連盟 (ISSW) および国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) とのジョイント

会議となる。組織委員会は今年の終わりに設立される。

12. 閉会

会長は、世界 ExCo、また地域 ExCo としての任期を終えたばかりの Marjaliisa Kauppinen 女史のひとかたならぬ貢献に対し、深く感謝の意を表した。Marjaliisa は ICSW を長く支えてきた人物であり、世界 ExCo、ヨーロッパ地域会長、地域財務を歴任した。現在の世界プログラム立ち上げの重要な立役者であり、また彼女の所属する福祉保健調査センター（STAKES）は、プログラム開発における主要な貢献者であった。

会長はまた、第 32 回世界会議に対する CBCISS の貢献に対しても感謝の意を述べ、CBCISS の Therezinha Arnaut 会長に、ICSW から CBCISS への心からの謝意を伝えた。

次いで会長は、Mariana Raposo 女史の会議への貢献、また地域の発展への貢献を評価した。

最後に、会長は Bjørg Månnum Andersson 氏および Marjaliisa Kauppinen 女史の名を挙げ、選挙管理委員会に対する彼らの貢献・支援に感謝した。また財務担当の Christian Rollet 氏ならびにスタッフに対し、会議を準備し、また支えてくれたことへの感謝を述べた。

他には何もなかったので、会長は参加者全員に感謝し、会議を閉会した。

重要な日程

2006 年

7 月 30 日～8 月 3 日：国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）世界会議

8 月 28 日～9 月 1 日：国際社会事業学校連盟（IASSW）（於チリ）

2007 年

1 月 20 日～25 日：世界社会フォーラム、（於ナイロビ、ケニア）

ヨーロッパ地域会議（於ヴィルニウス、リトアニア）

3 月 15 日～17 日：IFSW ヨーロッパ

11 月：イギリス連邦首脳会議（於ウガンダ）

2008 年

7 月 19 日～23 日：IASSW（於ダーバン）

8 月 16 日～19 日：IFSW（於ブラジル）

ICSW 執行委員会(ExCo)会議
議事録(案)

2006年7月22日

於 Grand Bittar hotel SHS Quadra 05 Bloco A
CEP: 70322-917 Brasilia-DF Brazil

1. 出席

会長	Solveig Askjem
財務担当役員	Christian Rollet
地域会長	
中央・西アフリカ	Charles Abbey
東・南アフリカ	Judith kaulem
南・中央アジア	Chandra Bandara
東南アジアおよび太平洋	Michael Raper
北東アジア	Jong-Sam Park
ヨーロッパ	Hans van Ewijk
南アメリカ	Mariana Raposo
その他の ExCo メンバー	
北東アジア	Anthony Kin-Wai wong
ヨーロッパ	Uta Stitz
	Pierre Alviset
オブザーバーおよびスタッフ	
Mirtha Sosa Crevoisier Regional Treasurer South America	
Björg Månnum Andersson Chair Nominations Committee	
Denys Correll, Executive Director	
Roselyn Nakirya, Project Assistant/Administrator, Kampala	

2. 欠席のお詫び

欠席の連絡はなし。

細則により、会長は ExCo のメンバーを指名することが出来る。会長は Mariana Raposo を南アメリカ地域の会長に、また Jong-Sam Park を北東アジア地域の会長に指名する件について ExCo に諮り、その後両名を指名して、ExCo に迎え入れた。

3. アジェンダの承認

アジェンダは承認された。

ExCo 決議 2006/1

定款委員会は、ICSW 会議のため、簡素で文化的配慮がなされた方法を考案すること。

動議：Uta Stitz

賛意：Christian Rollet

動議は通過した。

4. セッション外での決定のお知らせ

セッション外での決議事項は以下の通り。

1. 2005 年 7 月 12 日

2005 年 6 月 4 日、5 日にかけて行われた ExCo の議事録が承認された。

2. 2005 年 7 月 30 日

2004 年 12 月 31 日締め of ICSW 財務諸表が承認され、財務担当は財務諸表に署名することを許可された。財務担当および常務理事は、会計監査財務表に署名することを許可され、指定の基金から 87,498 米ドルを放出することが承認された。

3. 2005 年 10 月 24 日

Plan International の最高経営執行者である Jim Emerson ならびに Geoff Blurton 中佐を、国際会員組織を代表する ExCo メンバーに指名した（会長による指名は、ExCo への一定の諮問期間を経てから行われた）。

4. 2006 年 2 月 6 日

Solveig Askjem、Charles Abbey、そして Michael Raper が、Solveig Askjem が議長を務める世界会議選定委員会のメンバーとして指名された（指名は、ExCo への一定の諮問期間を経てから、会長により行われた）。

5. 2005 年 12 月 10 日

ICSW の既存のメンバーは、2005 年に課せられたのと同様のシェアを 2006 年に払うか、それともより高額な会費を払うかの選択を迫られた。2007 年の会費レベルについては、通常の 2007 年度支払い請求サイクルの中で見直しが行われる予定である。

6. 2005 年 12 月 10 日

カテゴリー A の新しいメンバーに対しては、正しい会費についての査定が行われるが、仮会員の最初の 2 年間で支払う会費は、その国のカテゴリー C のものと同額とする。2 年間の仮会員期間の最後に、新メンバーは 2006 年 6 月に ExCo が承認した段階的増加によってカバーされていない限り、完全に査定された会費へと移行する。

7. 2005 年 12 月 10 日

既存のカテゴリー A メンバーが査定された会費を支払うことができず、また

当該メンバーをカテゴリーA に留め得るいかなる救援形態も当てはまらない場合は、カテゴリーC に移行せられるものとする。

8. 2006年3月17日

2010年の ICSW 世界会議は、香港において、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）および国際社会事業学校連盟（IASSW）と合同で行われるものとする。

9. 2006年5月22日

2006年5月11日に回覧された ICSW 世界事務所コーディングが承認され、財務担当はこれらのコードに署名することを許可された。

10. 2006年6月4日

2005年12月31日締め of ICSW 財務諸表が承認され、財務担当は財務諸表に署名することを許可され、また財務担当および常務理事は、会計監査財務表に署名することを許可された。

11. 2006年7月6日

世界会議選定委員会は、フランス、韓国、ウルグアイの立候補を受け付け、それぞれの申請を査定した結果、2008年の第33回世界会議にフランスを推すこととし、常務理事にフランスの社会活動全国委員会（Comite National d'Action Sociale）との契約書を準備するよう依頼した。

上記決議事項についてのコメント：

2005年12月10日に通過した決議についての説明を求めた。決議は、2007年の請求書発行前に、常務理事が ExCo に対して、既存のメンバーにさらなる譲歩をすべきかどうかの勧告を行うことを意味する。

5. ルツェルンで行われた前回の会議の議事録

ExCo は、2005年6月4～5日にスイスのルツェルンで開かれた ExCo の議事録が、2005年7月12日に電子メール決議により承認されたことについて言及した。

6. 役員

6.1 ExCo は2名の副会長を指名することが出来る。会長は副会長を1名指名して欲しいとの意向を示した。また会長は、副会長が当然のように次期会長の後継者であると見られてはならないと述べた。会長は、副会長の役割について、以下のように説明した。

- 会議の議事進行において会長を補佐すること
- 会長がその職務を果たすことが不可能なとき、会長の代行をすること
- 定款委員会のメンバーとなること

ExCo 決議 2006/2

マイケル・レイパーを副会長に指名する。

動議：Uta Stitz

賛意：Chandra Bandara

動議は通過した。

6.2 地域会長への委任事項

アジェンダに添付された文書について、以下のコメントが出された。

地域会長への委任事項 (Terms of Reference: ToR) については、定款委員会へのブリーフに含まれるべきである。

このミーティングで改訂された文書については、新しい定款および催促が承認されるまでは暫定的な取り決めとして用いられるべきである。

地域 ExCo に照会しようにも、地域によっては存在していない。

文書では、メンバーの勧誘についての地域会長の責任が概説されているが、では地域 ExCo の役割は何なのか。

地域のための資源の探求については、少なくとも3つの要素がある。会費、世界レベルの資金、そして地域内からの資源の調達である。

地域における財政管理およびバンキングについての議論。銀行口座を設立するのが難しい。世界事務所が請求書の支払いを直接行う南・東アジアおよび太平洋地域のシステムは上手くいっており、地域の手間やコストを抑えることが出来る。

世界レベルでの ICSW の再登録を考えた場合、地域登録の必要性についても考えるべきである。

7. 監査、予算、財政、契約、スタッフ

7.1 2005 年監査済み財務諸表

ExCo 決議 2006/3

ExCo は監査後報告書を受け取り、監査勧告を支持する。

動議：Michael Raper

賛意：Hans van Ewijk

動議は通過した。

監査後報告書について上がった問題：

監査役が地域の口座にアクセスできなかった場合、なんらかの結果が生じるのかどうかという点について質問があった。

ExCo 決議 2006/4

ExCo は独立の予算をもつ地域に対し、地域マニュアルの第 5 項「地域財政の手続き」にあるように、年間財務諸表を用意するよう求める。

動議：Christian Rollet

賛意：Uta Stitz

動議は通過した。

7.2 2006 年度の今日までの決算

決算はまだだが、2006 年 6 月 30 日時点で 26,521 ユーロの黒字が確認されていることがコメントされた。

7.3 2007 年度、2008 年度の予算

予算は、実際の収入がわかってからのことになる。フィンランドとの契約は 2007 年末までである。SIDA との契約は 2008 年 6 月 30 日までである。

ExCo 決議 2006/5

2007 年度の詳しい予算は、2007 年 2 月までに ExCo の電子メール決議によって承認される。

動議：Michael Raper

賛意：Hans van Ewijk

動議は通過した。

7.4 2006 年予算

ExCo 決議 2006/6

ExCo は 2006 年の予算を承認する。

動議：Christian Rollet

賛意：Michael Raper

動議は通過した。

7.5 NIZW と ICSW の 2006 年の契約

ICSW は、オランダ介護福祉研究所 (Netherland Institute for Care and Welfare: NIZW) の支援について、感謝と共に言及した。Hans van Ewijk は、ICSW に対する便宜は 2008 年末までであると述べた。

7.6 2006 年の中央・西アフリカとの契約についての言及。

7.7 アフリカ開発プログラムの契約についての言及。

7.8 2006～2007 年の東・南アフリカの契約についての言及。

7.9 2006～2007 年の貧困削減フォーラムの契約についての言及。

7.10 南・東アジアおよび太平洋の契約。未完成。

7.11 常務理事の契約

2002 年 8 月 19 日に始まった契約は、本来 2006 年 8 月 19 日をもって終了したが、会長は 2007 年 10 月 14 日まで契約を延長した。常務理事のオランダにおける在留は 2006 年 11 月 10 日に切れる。在留は契約および常務理事のパス

ポートの期限と連動している。

ExCo 決議 2006/7

ExCo は、ICSW とデニス・コレル氏との間の雇用契約を受理し、それについて言及し、また会長に対して、スタッフ・財政委員会に諮ったうえで、オランダ在留必要事項の全てを満たすことが確実となるよう、契約を早晩実行することを許可する。

ExCo はまた、この契約書にサインした結果起きてくる法的問題やその他の問題について言及し、会長およびスタッフ・財政委員会に対して、これらの問題についての調査を早急に行い、またそれらに取り組むべく必要な段取りを踏むことを求める。

動議：Michael Raper

賛意：Uta Stitz

動議は通過した。

8. 会員資格および会費

8.1 2006 年の会費についての進捗報告と会員の反応について。

新しい会費制度は、会員の間では概して評判である。これは特に開発途上国および移行期にある国々からの新メンバー獲得という結果につながった。またカテゴリーA に上げられるだけの資格を備えながら、旧会費制度下では会費を払えなかったカテゴリーC のメンバーにも利するところがあった。すでにカテゴリーC からカテゴリーA に移行したメンバーもある。問題が残るのは、内情は豊かでありながら、NGO は貧しいという国である。インド、南アフリカ、デンマークなどがそれにあたる。

ExCo 決議 2006/8

各地域は、メンバーたちがなぜ ICSW のメンバーシップから脱落していくのかを突き止めること。

動議：Uta Stitz

賛意：Michael Raper

動議は通過した。

8.2 人口の多い国(インド、ロシアなど)における 1 つ以上のカテゴリーA メンバーに関する考察

大人口を抱える国においては、カテゴリーA 会員の基準を満たす団体が複数ある可能性がある。定款では、第 6 条(1)に、「その国における各国委員会を 1 つ設置することが出来る」となっている。

ExCo 決議 2006/9

ExCo は、定款委員会に対し、人口 2 億人以上の国についての ICSW 会員資格

の問題について考え、またどのような構造改革および定款改訂が、この会員資格達成に必要なのかを考察するよう求める。

動議：Michael Raper

賛意：Uta Stitz

動議は通過した。

9. 世界プログラム

9.1 2005～2008年に行われる世界プログラム

これは2004年にクアラルンプールで開催されたCoRepによって承認された。4カ年計画を承認するに当たり、CoRepは2006年に中間報告を行うことを指示した。これは2006年7月21日に行われた。

9.2 新しい世界プログラム：2009年から始まる新しい世界プログラム創設のプロセスについての議論

ExCoは、「ExCo決議 2005/1/15」について言及した。

『世界プログラムは、現在の世界プログラムの進行状況を評価しつつ、世界における優先事項についての外部のアドバイスならびに地域会長からの情報提供を受けて作成されること。プログラムは、4カ年計画であるべきであり、2年ごとに見直しがされ、またその時に次なる4カ年計画を立てること。プログラムおよび見直しは、2年ごとのメンバー会議で報告されること。細則12の「世界(World)プログラム」を「世界(Global)プログラム」に変えること。』

10. 構造見直し

ExCoは、2006年7月21日のCoRep以降のアクションについて考察した。

ExCo決議 2006/10

2006年7月21日のCoRepで承認されたように、定款委員会を設立され、会長、財務担当、副会長およびJürgen Gohdeをメンバーに指名する。

動議：Charles Abbey

賛意：Chandra Bandara

動議は通過した。

11. 世界会議

11.1 第32回世界会議

11.2 2008年の第33回世界会議の日取りは6月30日～7月4日に決定。

11.3 2010年の第34回世界会議は、国際ソーシャルワーカー連盟および国際社会事業学校連盟との合同で、香港にて開催。

11.4 地域会議

2007年：KNCSW（韓国）の主催により、9月末に北東アジア会議

2007年：ヨーロッパ

2009年：ヨーロッパ

12. 委員会

Björg Månum Andersson 委員長および Marjaliisa Kauppinen は、引き続き選挙管理委員会のメンバーとして留まること、また Hans van Ewijk が、2008年の会議に向けて世界プログラム委員会の委員長に迎えられ、委員会のメンバーのノミネートを依頼されたことについての言及があった。

13. その他

13.1 2007年の国連社会開発委員会における国連代表について

香港社協は1ないし2人を送る予定である。彼らの参加は大歓迎であり、ICSWの被任命者と協力するだろう。ドイツ公私連盟からの参加者1名については、ドイツ政府がスポンサーとなる。またICSWのオーストラリアのメンバーと提携している障害者団体からも代表が送られる可能性がある。会長は、国連での会議に参加する代表者を指名することを許可された。

13.2 朴宋三氏は9月にHIV/AIDS会議に参加することを表明し、ICSWを代表することを許可された。

13.3 本会議の間に行われた指名および選挙については、被指名者および被選出者によって受諾される必要がある。

14. 次回ミーティング

2007年6月、リトアニアのヴィルニウスにて開催される。

他団体の重要な日程

2006年

7月30日～8月3日

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）世界会議、於ドイツ、ミュンヘン

8月28日～9月1日

国際社会事業学校連盟（IASSW）世界会議、於チリ

2007年

1月20日～25日

世界社会フォーラム、於ケニア、ナイロビ

3月15日～17日

IFSWヨーロッパ会議

11月

イギリス連邦首脳会議、於ウガンダ（詳しい日程は未定）

2008年

7月19日～23日

IASSW 世界会議、於ダーバン

8月16日～19日

IFSW 世界会議、於ブラジル

第 3 2 回国際社会福祉会議：ブラジル

概要

第 32 回国際社会福祉会議は、『ソーシャルインクルージョン：貧困と社会的不平等に対峙して』のテーマのもと、2006 年 7 月 16 日～20 日にかけてブラジルのブラジリアで行われます。会場は Ulysses Guimaraes Convention Center で、ブラジリアの中心部にある、大変利便性の高い会議場です。



会議では 3 回の全体会議と 3 つのシンポジウムが、政府関係者、市民社会の代表者、あるいは学者、研究者など多岐にわたる参加者を迎えて行われ、加えて貧困と不公正に取り組んでいる専門家による、50 のワークショップが開かれます。ワークショップでは、国連のミレニアム開発目標に基づいて、社会福祉と社会的平等をカバーするいくつかのテーマについて議論するほか、貧困撲滅、教育、子ども、若者、女性、高齢者、障害者、原住民、移民、保健、HIV-AIDS、環境、性（ジェンダー）における平等、女性の自主性、DV（家庭内暴力）、食の安全などについても広く議論が行われます。

使用言語は原則として英語で、ポルトガル語、フランス語、スペイン語の同時通訳と手話通訳が付きまます。

会議最終日には、公的団体および NGO による活動に親しんでもらうための見学ツアーが予定されています。いずれも第 32 回会議でカバーされる範囲の活動を行っているところで、貧困撲滅および不公正是正に取り組んでいます。

ご挨拶

CBCISS 会長メッセージ

2006年7月、私たちは本21世紀では4回目となる、第32回 ICSW 国際社会福祉会議のためにブラジルに集います。

新世紀の幕開けという時に、また歴史的にも社会的にも難しいこの状況にあって、お互いに智恵を出し合うべく、ここブラジリアで ICSW 加盟国の皆様、そして国際組織の代表の皆様にお会いできる機会を、私たちブラジル人は大変楽しみにしております。世界中のいたるところで疎外される人々が増えております。私たちは暴力、飢え、惨めさ、そして女性差別や人種差別と隣り合わせに生きており、また教育、就労、保健の機会といった面での格差は広がっています。住宅の確保は不公平であり、多くの住居は基本的な衛生条件を満たしていません。技術上の進歩は、必ずしも人々の生活の質をよくするわけではなく、また環境保護への関心を高めるわけでもありません。

『ソーシャルインクルージョン：貧困と社会的不平等に対峙して』が、今回の会議のテーマであり、より公正でより人間的な社会を求めて、政府関係者や市民社会との対話を試みます。

皆様の参加をお待ちしております。どうぞ南米へお越しくください。ブラジルは皆様のおいでを首を長くして待っております。それでは7月にお会いしましょう。

CBCISS 会長

Therezinha Arnaut

The Brazilian Center for Cooperation and Social Exchange Services

ICSW 会長メッセージ

ICSW 第32回世界会議 ブラジリア 2006年

ICSW は世界レベルでの巨大なネットワークを有しています。貧困や弱さを世界中からなくすための努力を強めるべく、二年に一度、世界会議を開催しております。

2006年には是非ブラジリアへお越しくくださり、ブラジルと南米の香り漂う

ICSW 世界会議にご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。ブラジルで最後に皆様とお会いしたのは、実に 44 年前リオ・デ・ジャネイロで開かれた会議までさかのぼります。一人のヨーロッパ人として、私は世界でも急速に変化し、そして面白くもあるこの地で、古い友人や新しい参加者とお会いするのを大変楽しみにしております。

ICSW の会議では毎回、世界的な社会政策に関する新しい知識の分ち合いや、自分たちの国や地域での毛件を話し合うことを通じて、社会福祉、社会正義、そして社会開発の進歩を探求しています。

全体会議、シンポジウム、ワークショップ、そして様々な社会イベントは、多くの人々との出会いの場であり、自分の考え方を変えたり、将来の仕事を高めたりすることのできるよい機会です。

2006 年にブラジリアでお会いしましょう！

ICSW 会長

Solveig Askjem

第 32 回国際社会福祉会議会長メッセージ

私たちは、自国での第 32 回 ICSW 国際社会福祉会議開催を 42 年間も待ち続けていました。世界会議は二年に一度、ICSW によって行われるもので、80 力国以上が参加し、貧困や飢餓の問題を解決するための公共政策が必要とされる世界において、社会正義を伴う社会的包括や人権の尊重などについての議論や経験交流を行うものです。

第 32 回国際社会福祉会議のオーガナイザーは、貧困および社会的不公平を克服するための戦略構築に対する、各組織、専門家および政府組織の期待を反映する形で、論題を選びました。

加盟各国、取り分けラテン・アメリカ諸国およびカリブ地域諸国の参加をお待ちしております。また、その他の関係諸国も是非登録して、その経験をご紹介します。

より公平な世界のために、どうぞ登録し、そして参加し、皆様の声を変化のためのツールとしてください。

第 32 回国際社会福祉会議会長

Maria da Penha Silva Franco

日程

事前日程

- 4月9日：ワーク事例タイトル締め切り
- 4月30日：受付済みワークショップ・ペーパーならびにポスターの連絡
- 5月1日：特別料金による参加締切
- 5月15日：出版用ペーパー完成原稿締め切り、登録費締め切り
- 7月16日：9：00～14：00 資格認定および最終登録

プログラム

7月16日（日）

- 9：00～15：00 - 登録
- 16：00 - 第32回国際社会福祉会議 開会
- 19：00 - カクテル・パーティー

7月17日（月）

- 09：00～10：30 - 会議「浪費の世紀における貧困と不公正」
Aldaiza Sposati（ブラジル）
Alfredo Bruto da Costa（ポルトガル）
- 11：30～11：00 - 休憩
- 11：00～12：30 - シンポジウム（1、2、3同時進行）
 1. ワークとその変容
Gerry Rodgers OIT（スイス）
 2. 貧困と不公正：教育の諸問題
 3. 社会的包摂
Alicia Kirchner（アルゼンチン）
Chong Chan Yau（香港）
Vicente de Paula Faleiros（ブラジル）
- 12：30～14：00 - 昼食
- 14：00～15：30 - ワークショップ（10）
- 15：30～16：00 - 休憩
- 16：30～17：30 - ワークショップ（10）
- 17：30～18：30 - ワークショップ（ICSW）
- 18：30 - まとめ
- 20：30 - 親睦晚餐会

7月18日(火)

09:00~10:30 - 会議「より公正な世界に向けた倫理と連帯」

Carlos Moore (キューバ)

10:30~11:00 - 休憩

11:00~12:30 - シンポジウム(1、2、3同時進行)

1. 人権の今

Blanca Chancoso (エクアドル)

Guilherme de Almeida (ブラジル)

Tassadit Yacine (アルジェリア)

2. 倫理とメディア

Eugenio Bucci (ブラジル)

Manoel Manrique (コロンビア)

3. 倫理と無言の暴力

Amelia Valcarcer (スペイン)

Padre Julio Lancellotte (ブラジル)

Uberfil Monzon (ウルグアイ)

12:30~14:00 - 昼食

14:00~15:30 - ワークショップ(10)

15:30~16:00 - 休憩

16:30~17:30 - ワークショップ(10)

17:30~18:30 - ワークショップ(ICSW)

18:30~ - まとめ

20:30~ - 文化イベント

7月19日(水)

09:00~10:30 - 会議「人間開発・社会開発への世界の関わり」

10:30~11:00 - 休憩

11:00~12:30 - シンポジウム(1、2、3同時進行)

1. 政府と社会福祉

Asa Cristina Laurell (メキシコ)

Sonia Fleury (ブラジル)

2. ミレニアム目標~勝利と課題

Ana Peliano (IPEA/ブラジル)

Hanifa Mezoui (フランス)

3. 市民社会の組織とその活動

Lilian Celiberti (ウルグアイ)

Sergio Haddad (ブラジル)

- 12 : 30 ~ 14 : 00 - 昼食
- 14 : 00 ~ 15 : 30 - ワークショップ (10)
- 15 : 30 ~ 16 : 00 - 休憩
- 16 : 30 ~ 17 : 30 - 閉会式
- 20 : 30 ~ - お別れ晚餐会

7月20日(木)

- 09 : 00 ~ 10 : 30 - 見学
 - グループ 1 : 子ども
 - グループ 2 : 高齢者
 - グループ 3 : 仕事・所得創出
 - グループ 4 : 障害者
 - グループ 5 : 家庭内暴力
 - グループ 6 : 先住民
 - グループ 7 : AIDS/HIV
 - グループ 8 : コミュニティ・センター
 - グループ 9 : 文化
 - グループ 10 : 民族グループ
- (詳細は別紙参照のこと)

NO.	グループ	団体／組織	サービス内容
1	子ども	AFMA - Community Social Action	保育園-フルタイム
		Nair Valadares Institute	社会・教育サービス一般に開放
		SESC - Gama - Business Community Social Service	社会・教育サービス一般に開放
2	高齢者	St. Vicente de Paula - Old Peoples Home	長年の実績のある施設
		Elderly Fellowship Center - Brasilândia	世代間交流センター
		Santa Izabel Social Services	交流センターおよびホームサービス
		SESC - Business Community Social Service - Elderly Group	高齢者グループ-社会的統合
3	仕事／所得創出	FUNAP - Workers Support FundProject: Painting Freedom	人口カルセラリア(？)
		Childrens Community Center - Ceilândia	所得獲得および食物リサイクルに関する家族への支援
		100 Dimensão Cooperative - Women Entrepreneurs	リサイクル・ショップ
		EMATER - Embroidering Womens Group of Planaltina Satellite City	手工芸による所得創出
4	障害者	APAE - Taguatinga	心身障害者に対する支援
		INTEGRA - Guide Dog Project	視覚障害者に対する支援
		APAED - Ceilândia	訓練およびリハビリテーション
		NOVACAP - Flower and Ornamental Plants Nursery	所得創出
5	家庭内暴力	Reencounter Shelter Home	暴力の被害者である子どもおよび青少年の家
		SEAS - Shelter Home	女性と子ども
		Brazilian Kung - Fu Association	若者と社会のリスク
6	先住民	Indigenous Nation - FUNASA - UNB Project	ヤノマミ族およびザヴァンテ族に対するヘルスケアの提供
7	AIDS/HIV	Taguatinga Home	HIV/AIDS を抱えて生きる子どもたち
8	コミュニティ・センター	SESI - Industry Social Service and SENAI - National Industrial Apprenticeship Service - Taguatinga and Ceilândia	子ども、若者および成人のための教育、職業訓練、保健およびレクリエーションのプログラム
9	文化	Ilê Axé Orixá - Dewi	宗教的シンクレティズム(混合主義)
10	民族グループ	Quilombo - Kalunga	キロンボラ・コミュニティ-アフリカ系の子孫の伝統

関係先

主催 : ICSW 本部

ICSW Global Office
P.O.Box 19152
C/O NIZW International Centre
Utrecht DD3501
The Netherlands

運営 : CBCISS

(Centro Brasileiro de Cooperacao e Intercambio de Servicos Sociais)
R. Santa Luzia 685
2 ° andar
CEP 20.030-041
Centro-RJ

登録

参加登録費

登録支払い	2006年5月1日以前	2006年5月1日以降
開発途上国:		
a) ICSW加盟国の登録:		
通常登録:	US\$ 150.00 (同行者: US\$ 75,00)	US\$ 200.00 (同行者: US\$ 100,00)
学生:	US\$ 100.00	US\$ 120.00
b) ICSW非加盟国の登録:		
通常登録:	US\$ 180.00 (同行者: US\$ 90,00)	US\$ 230.00 (同行者: US\$ 115,00)
学生:	US\$ 120.00	US\$ 170.00
先進国:		
a) ICSW加盟国の登録:		
通常登録:	US\$ 300.00 (同行者: US\$ 150,00)	US\$ 350.00 (同行者: US\$ 150,00)
学生:	US\$ 120.00	US\$ 170.00
b) ICSW非加盟国の登録:		
通常登録:	US\$ 350.00 (同行者: US\$ 175,00)	US\$ 400.00 (同行者: US\$ 200,00)
学生:	US\$ 120.00	US\$ 170.00

ワーク事例登録

ワーク事例は、貧困と社会的不平等に対峙した経験をあらわすものでなくてはなりません。ワーク事例は、以下の項目に従って、ワークショップあるいはポスター展示へと振り分けられます。

ワーク事例

協働作業、新たな収入の道、非公式なワーク、連立経済、最初の仕事、初期のワーク

教育

グローバリゼーション、青年・成人教育、社会的包摂、識字、専門的な訓練および教育

保健

女性・子ども・青少年の健康、事故と病気、住居、基礎衛生、精神衛生、乳幼児死亡率、風土病、HIV/AIDS、麻薬中毒、食の安全、包括戦略としてのスポーツ

人権および社会支援

飢餓および貧困との闘い、高齢者・障害者・子ども・若者・囚人・路上生活者・ジェンダー・先住民・エスニックグループ・移民および難民への支援文化

文化的表現、文化・伝統の保護、包括戦略としてのアート

市民社会組織

企業行動、協議会、フォーラム、ネットワーク、ボランティア、社会動向、教会、シンジケート、第3セクター強化、訓練および専門教育、法律、モニター・評価システム、情報、政府とNGOの関係、社会技術移転